

令和3年



1月 右田中学校だより

防府市立右田中学校

TEL 22-0984

令和3年始業式と生徒会役員及び専門委員長の任命式

全校生徒数386名

1月8日(金)、3学期始業式を、コロナウイルス感染予防のため放送によって行い、新しい年がスタートしました。また令和3年の生徒会役員及び各専門委員長の任命を行いました。新生徒会長の荒瀬晴斗君を含め8名の役員と12名の専門委員長が任命されました。14日(木)の生徒集会も、放送をとおして決意表明や活動方針の説明などがありました。



生徒会長:荒瀬晴斗、副会長:佐々木悠人、町田萌生、書記長:内田晴菜

書記:村田由来、津田隆太、会計:田中凧輝、大本ゆう

総務委員長:吉岡獅空、岸本真歩 生活委員長:小川智久、浪松藍美 学習委員長:熊本航大、國弘乃愛

広報委員長:清水敬介、湯浅美羽 厚生委員長:山田悠希、原田律花 保健委員長:中川海生、藤井 楓

【新生徒会長 荒瀬晴斗君の所信表明演説】

今年の生徒会の年間目標は、「地域から愛され信頼される学校をつくろう」です。

僕たち中学生は、常に地域から応援されている存在です。その応援の中には、たくさんの期待が詰まっているはず。その期待に応え、応援された分、別の形にして返していき、地域から応援される人物に留まらず、応援される学校にしていきたいと思いました。そのためには、普段から、地域から愛され信頼される必要があります。そして、地域から愛されている学校は自然と応援されるはず。そのために、各委員会と連携し対策を立てていこうと思います。

第23回貞永杯中学校駅伝競走大会で右田中チーム男子・女子ともに3位

1月10日(日)、
「第78回防府市内一周駅伝競走大会兼第23回貞永杯中学校駅伝競走大会」が、麒麟レモンスタジアム陸上競技場をスタートし、佐波中学校をゴールとして、開催されました。お陰様で、男子・女子ともに3位入賞を果たし、また、女子では3区の区間賞も獲得しました。オリンピックランナーだった貞永信義さんは右田中出身です。



1区 麒麟レモンスタジアム陸上競技場～中関小学校

男子渡邊 隼 **女子**松重四季

2区 中関小学校～華西中学校

男子荒瀬晴斗 **女子**前田莉那

3区 華西中学校～泥江会館

男子富岡一聖 **女子**富岡一咲 **区間賞**

4区 泥江会館～玉祖神社前

男子原田詢大 **女子**出穂茉白

5区 玉祖神社前～JA防府とくち配送センター

男子横川暖太 **女子**栗栖里梨愛

6区 JA防府とくち配送センター～佐波中学校

男子松木花道 **女子**森本光咲

2年生新春書き初め大会

1月8日(金)、2年生の学年行事として、新春の書き初め大会を行いました。生徒は、立志の決意に相應しい四文字熟語を選び、体育館で練習した後、条幅紙に向かい、真剣なまなざしで一筆一筆に想いを込めて書き込みました。厳しい寒さの中でしたが、生徒一人一人の立志の決意が形になって勢揃いしました。



2月12日(金)に実施予定の「立志の集い」では、決意表明の作文や立志の書き初め、それに学年合唱を披露する予定です。

防府市英語教育公開授業

1月18日(月)、1年1組で防府市英語教育公開授業を行いました。生徒は、英語の過去形を使って、冬休みに体験したことを、アメリカ人の英語指導助手の先生に聞いたり、紹介したりしました。今年度から、小学校でも英語が必修となったことから、小学校と中学校の連携が大切になってきました。当日は、県内各地から、小学校と中学校の英語教育に取り組んでおられる先生方21名が参加され意見交換をしました。また大阪樟蔭女子大学の兼重昇教授から英語の授業づくりや評価についてご指導いただきました。



右玉子ネット(右田小・玉祖小・右田中)でのデジタルコントロール出前授業

1月に、右田小・玉祖小・右田中の3校の児童生徒を対象として、右田中校長から「スマホ・ゲームとのつきあい方」について、講話を行いました。児童生徒と保護者へのアンケートから、「スマホやゲームの時間が守れていない」ことが共通課題として明らかになっています。学習では、スマホやゲームの時間が長くなると学力が下がること、ネットでのいじめや炎上がおこるわけ、脳がネット依存になってしまうわけ、そして、集中力を取り戻す具体的な手段や、家庭でのルールづくりについて、学びました。

ルールづくりで大切にしたいこと

- ・購入は親名義で子どもはそれを借りている。
- ・しっかり話をして、大人の常識を知る。
- ・自分自身が守れそうなルールを一緒に決める。
- ・使う場所と時間帯と金額を決める。
- ・ルールは画面に残し、半年に一度見直す。
- ・守れなかったときどうするかを決めておく。(電話1つで止められる。料金を払わない。)
- ・家族もルールを守る。

スマホを取り上げても
ゲームを壊しても
本質的な問題は解決しません。

- ・幸せは、人間関係の中にあります。
- ・人に何かをしてもらったときの喜びより人のために何かをして、相手が喜んでくれた時の方が、もっと大きな喜びが得られます。
- ・一番よい体験は、運動と家の手伝いです。

3学期始業式校長式辞

明けましておめでとうございます。新しい年が、生徒の皆さんと右田中、さらにご家族や右田地域にとって、よい年となるよう、心から祈っています。皆さんも、それぞれに、今年の誓いを心に決めていることと思います。今日は、そうした目標の設定について、2つのお話をしたいと思います。

ウサギとカメの歌を知っていますか。もしもカメよ、カメさんよ、世界のうちにおまえほど、歩みののろい者はない。どうしてそんなにのろいのか。ずいぶん、腹の立つものの言い方ですね。もっと不思議なのは、ウサギとカメが、何語で話したのかと云うことです。これは本当にはあり得ないお話、つまり、寓話だということが、最初からわかります。「ウサギとカメ」は、イソップ物語のひとつで、日本には室町時代以降に伝わったとされています。江戸初期に発表された翻訳本『伊曾保物語』によって広まり、明治時代の教科書にも収録され、普及していきます。2番では、「なんとおっしゃるウサギさん」と、カメさんが返答します。ちゃんと敬語で返すあたりが、カメさんの人柄?、いやカメ柄を感じさせます。そして、むこうの小山の麓までかけくらすることになるのですね。お話は、このあとウサギが昼寝している間に、カメが先にゴールした、という結末になるわけです。普通、このお話は、才能があっても努力を怠ると、こつこつ努力した人に負ける、という人生の教訓として使われています。私は、コロナの時代にあって、このお話からもう一つ、学ぶべきことがある、と気づきました。それは、ウサギとカメでは、見ているところが違うということです。ウサギは、のろまなカメをみて、昼寝します。ところが、カメはウサギなんかぜんぜん見ていません。向こうの山を見ています。ウサギが早かろうが、寝ていようが、自分は向こうの山の麓に行くんだ、という強い気持ちが伝わってきます。だれかと比べて、自分は不利だと思えないところが、カメの強さの秘訣なのです。私たちは、目標として、試合で優勝するとか、コンクールで金賞を取るとか口にしてきましたが、それは、すべて、だれかと戦ったり比べたりして、勝ち上がっていく場面を想定しています。そういう試合の場面がなかった今だからこそ、相手がどうであれ、自分が理想とするプレーを決めたいとか、こんな作品を創り出したいとか、そうした目標こそが大事だと教えてくれているような気がします。

さて、年が改まって、今年は丑年です。えとの決め方について、東アジアの多くの国に、こんな物語が言い伝えられています。その昔、神様が「1月1日の朝、挨拶に来た12番目までの動物に、毎年交代で、リーダーとなって仕事をしてみよう」とおっしゃいました。動物たちは、我こそが一番になろうと思い、お正月の早朝から、神様のもとを目指しました。牛は、自分が歩くのが遅い事を知っていたため、前日の夜から歩きはじめました。賢くてすばしいねずみは、牛が前の日から歩きはじめるだろうと予想し、ちゃっかり牛の背に乗って一緒に出発します。そして、到着寸前にねずみが飛び出して一番に挨拶をしたことから、最初にねずみ、次に牛という順番となりました。ねずみは、だれより先に到着したい、一方、牛は、神様のもとにあいさつに行つて仕事がしたい。だれかに勝とうと必死になるか、それとも目標を大切にするか、ここでも考えさせられる場面です。

この二つのお話は、いずれも、だれも傷つけないよう動物の姿を借りながら、実は人生の真実を語りかけてくれます。今年は、自分の力を信じて、人と比べず、焦らず、あきらめずに、歩み続ける丑年にしたいと思います。今年一年の、皆さんの健康と活躍を心からお祈りし、式辞とします。終わります。

※右田中学校のホームページにもアクセスしてください。

右田中学校

検索

<http://www.c-able.ne.jp/~hofumigi/>